

ふくしま市男女共同参画情報紙

しあぶら

特集1

「いのちの電話」の現場から

「男らしさ」を考える

特集2

子育てを地域で助けあい

福島市ファミリーサポートセンター

- 女性の地位向上に道を拓く

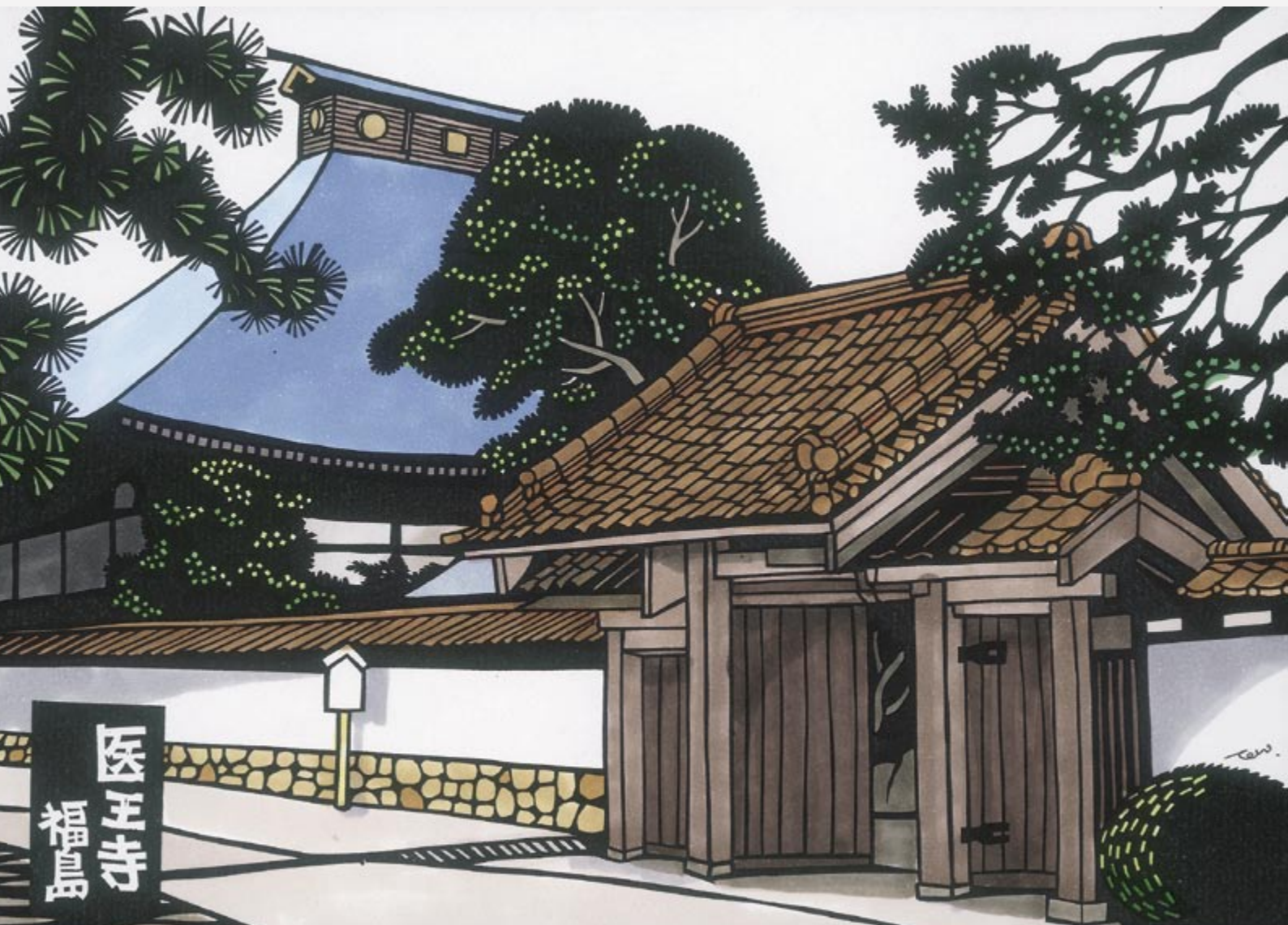
福島商工会議所副会頭 須田 光江さん

- 読んでみらんしょ 『盛年—老いてますます…』

『老いて はつらつ』

- リレーエッセイ2 この指に止まれ

NO. 23 MARCH 2005



「いのちの電話」の現場から

「男らしさ」「女らしさ」を考える

男女共同参画やジェンダーフリー(※)の考え方は、これまで女性側からの問題提起によって推進されてきました。そのせいか、「自分には関係のない問題」と考え、関心を持たない男性も多いようです。しかし、「男は男らしく、女は女らしく」というジェンダーの押しつけによって、男性も生き方の幅を狭められています。中高年男性の自殺死亡率の高さは、そのあらわれだとも言われています。そこで、「福島いのちの電話」評議員の玄永牧子さんにお話をうかがい、自殺をめぐる統計や電話相談の傾向から見てくるジェンダーの問題について考えてみました。

●男性自殺者は女性の3倍

日本ではここ数年間、年間自殺者数が三万人を超え、先進諸国の中で自殺死亡率の高さは群を抜いています。

そして、二〇〇三年の全国の自殺死亡率率は人口十万人に対して、男性三八・〇人、女性二三・五人と、男性は女性の約三倍となっています。福島県では男性四三・六人、女性二二・九人(厚生労働省の「自殺死亡統計の概況 人口動態統計特殊報告」二〇〇五年)で、全国の数値より男女格差

が大きいがわかります。

女性の自殺死亡率は、年齢とともに上昇していくのに対し、男性は五〇代後半をピークにした山があり、その後八〇代からまた上昇していきます。

自殺の理由で最も多いのは「健康問題」ですが、不況と連動して「経済・生活問題」による自殺が急増しています(警察庁生活安全局地域課自殺の概要)。

一方、自殺を考えて「いのちの電話」に相談してく

るのは、全国的な傾向として、二〇〜三〇代の独身と思われる男性が圧倒的に多いそうです。彼らは引きこもりがちだったり、精神的なブレッシャーから仕事をやめてしまったたりして、自信を失い、就職もできない、そして結婚相手も見つけられない、という悩みを抱えています。

●「男らしさ」にとらわれて

中高年男性の自殺死亡率の高さ、そして二〇〜三〇代男性たちの悩みの背景にあるも

のが「男性はきちんとした仕事について、家族を養えるだけの収入を得なければならぬ」という「男らしさ」の縛りです。

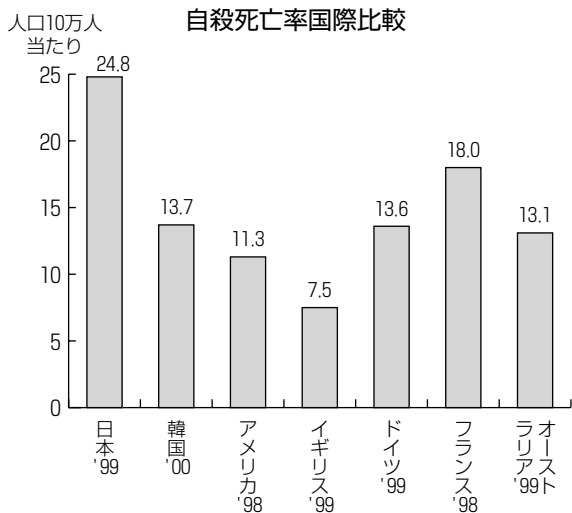
「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業により、経済的な責任を一手に押し付けられた男性は、これまで「一人前に稼ぐ」ことで自己のアイデンティティを保ってきたので、失業や過労によるストレス、あるいはリストラなどで心の拠り所が崩れたとき、「メンツ」を失い、行き詰まって自

殺に走ってしまうのでしょう。

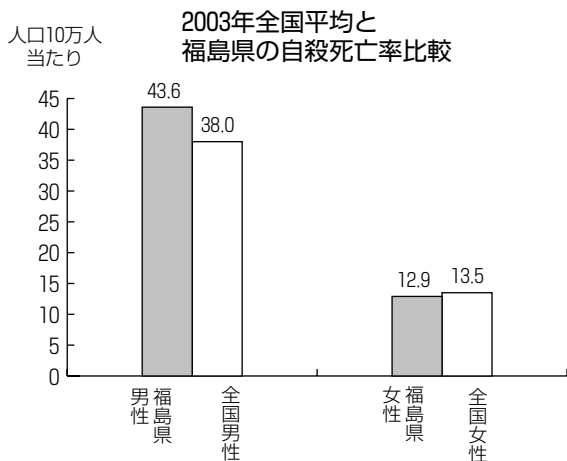
そして、心が悲鳴をあげているのに、「男だから」と自分の心の声に耳を傾けず、あるいは心の悲鳴に気づきもせず、自分自身を追い込んでしまつてはないかと思われま

●責任を分担すれば…

性別役割分業によって女性は家事・育児を主に担わされ、経済的自立の道を阻まれてきました。しかし、逆に経済的責任を担わなくてはならぬ、自由な生き方や働き方ができ



出典 総務省統計局『世界の統計2004』
国名のあとの()は調査年次



出典 厚生労働省『自殺死亡統計の概況 人口動態統計特殊報告』
(2005年1月)

るようになっていいると言え
ます。

一方、男性たちは好むと好
まざるとに開けず「家族を
養える仕事や働き方」を選ば
されてきました。その働き方
を維持できなかったり、それ
以外の道を選んだりすること
は「男でなくなる」ことと同
じだったので。

仕事をして収入を得る労働
と、家庭を維持するための家
事・育児を、男女ともに責任
を分担し、お互いに助け合っ
た社会であれば、男性を自殺ま
で追い込まずにすむのではな
いでしょうか。

●「女らしさ」も自殺理由？

女性の自殺死亡率は年齢が
上がるほど高くなっていくと
いう傾向があります。そして
自殺する高齢者は一人暮らし
の方よりも家族と同居して
いる方の割合が高いそうで
す。健康問題などで家族に迷
惑をかけることに対する精神
的負担が自殺に結びつくの
です。

ここにもまたジェンダーの
問題が潜んでいると、玄永さ
んは言います。女性は「世話
をする」側としての意識が強
く、男性よりも「世話をされ
る」ことに対して「情けない、

「申し訳ない」という思いが
強いのです。

●多様な生き方を認め合う

今回の取材を通して、ジェン
ダーフリーは「命」にまでかか
わる重大なテーマなのだといっ
たことを改めて感じました。

性別にとらわれず、多様な
生き方ができる社会、さまざま
な個性をもつ人々が共生す
る社会をつくっていくために
は、社会制度も人々の意識も
もっとジェンダーフリーにし
ていく必要があると思いま
した。

「おしゃべり」は男らしくない？
「井戸端会議」で
「よるい」を脱いだ男たち

福島にも「男らしさ」の押
し付けに疑問を持ち、自分ら
しい生き方を模索して活動し
ている男性たちがいます。その
ひとつが「男の井戸端会議ふ
くしま」というグループです。
代表の丸徹さん(郡山市
在住)は「まっとうな社会人」
として月々のノルマもある営
業職をこなしています。しか
し、「男だからきちんと仕事
をしなくてはならない」「苦
しくて我慢して、頑張らな
くてはならない」という無言
の圧力を常に感じていたそう
です。

そんなとき、メンズリブ
「男らしさ」からの解放を目
指す運動)の考え方に出会い、
一九九九年、同じように感じ
ていた仲間とともに男性同士
が出会い、語り合う会を設立
しました(設立当時の名称は
「メンズリブふくしま」)。

女性グループや行政からの
反響も大きく、シンポジウム
などに参加することもありま
したが、もともと「むやみに
頑張らなくてもいい生き方を
したい」という気持ちから発
足した会なので、今は集まっ
ておしゃべりすることに意

義がある」と考え、「男の井
戸端会議ふくしま」と名称変
更し、肩肘をはらない活動を
続けています。
現在は月一回程度、数人が
集まって、パートナーのこと
子育てのこと、仕事のことな
ど、悩みやグチもまじえてい
るいろいろなことを語り合っ
ています。

「おしゃべりってこんなに
楽しいものだったんだ、とい
うことを発見しました」と丸
さんは語ります。「男だから
頑張らなくてもいいんだ」
と開き直ったら、肩の力が抜
けて楽になれたそうです。
日々のおしゃべりでストレ
スや悩みを発散する女性はた
くさんいます。一方、男性は
くよくよすること自体が男ら
しくないと一人で悩みを抱え
てしまいがちです。
「男らしくあらねばならな
い」という強迫観念は男性自
身も、そして女性をも抑圧す
る結果になってしまいます。
「男の井戸端会議ふくしま」
のように、男性が「男らしさ」
のよるいを脱いで、悩みやつ
らさを語る場がもっともっ
と必要なのだと感じます。

「男の井戸端会議ふくしま」に興味にある方は、電話(090・2606・4505)かメール(mlib78@yahoo.co.jp)で丸さんまでお問い合わせください。

子育てを地域で助けあい

「福島市ファミリーサポートセンター」

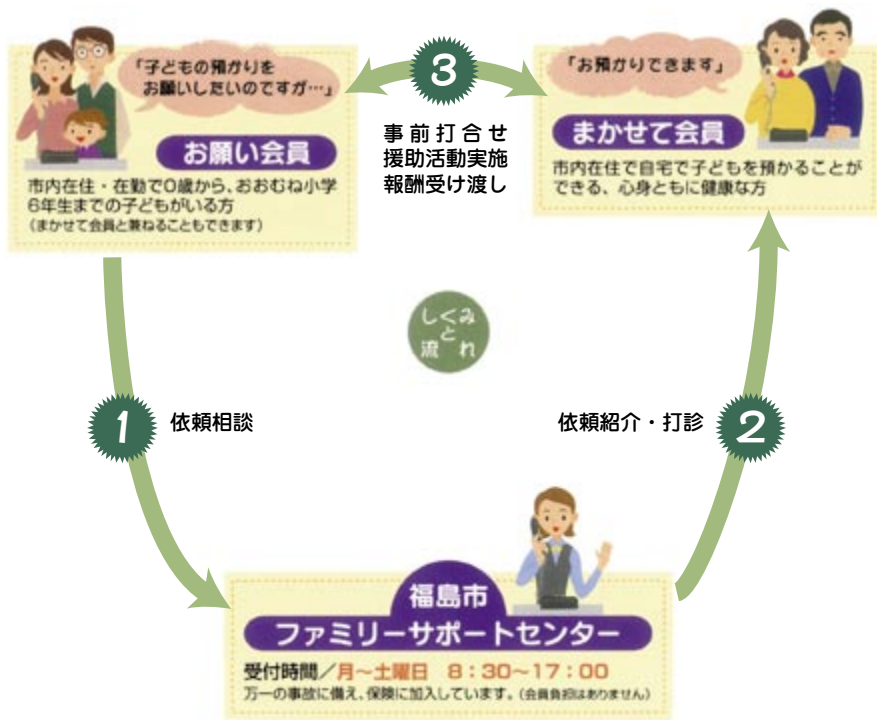
子育てを支える 待望のセンター

近年、働く女性は増加を続けています。しかし、働く女性を取り巻く環境は、長引く景気低迷に加え、都市化と就業規制の緩和に伴う勤務形態の多様化の中で、とても厳しいものとなっています。子どもを持つ女性が、土日・祝日に出勤する事や、交替勤務、早出・残業に従事することも多くなっています。

また、全国的な少子化の要因として、女性の未婚率の増加、晩婚化があげられています。子育てに対する負担が大ききことも一因としてあげられています。子育てに関する悩みは、女性の就業、非就業にかかわらず多くの子育て中の女性があげています。

このような状況を踏まえ、国と県の補助金を受けて、市区町村が設立・運営するのが、ファミリーサポートセンターです。

昨年、福島市にも待望のファミリーサポートセンターができました。仕事と子育ての両立や地域での子育ての機能の強化に大きな役割を果たしています。



ファミリーサポート センターって何?

A 福島市保健福祉センター内に窓口を設け、3名のアドバイザーが、子どもの一時預かりについて、預けたい人、または預かることができる人の問い合わせや相談に応じます。実際にここで子どもを預かるわけではありません。

会員になるには どうすればいいの?

A まず、ファミリーサポートセンターのしくみについての説明を聞いていただきます(説明会またはセンター窓口で随時)。そして、希望事項などを書いた申込書をセンターに提出します。「まかせて会員」の場合は、全員が面接を受け、その後講習会を受けます。

料金は?

A 子どもの年齢、時間によって左の表のように決められています。「お願い会員」は報酬のほか、事前打ち合わせに基づいて、子どもの送迎にかかる交通費・おやつや食事代などの実費を「まかせて会員」に払います。

時間・報酬 (1時間あたり)

まかせて会員の援助時間	報酬/基礎額
月～金曜日までの 午前7時から午後9時までの間	0～3歳 800円 4～6歳 700円 7歳以上 600円
時間外及び土・日・祝祭日	基礎額の100円増



▲窓口を訪れた親子づれ

子どもを預かってほしい
送り迎えをしてほしい

でも頼める人がいない…

このようなとき



病気



リフレッシュ



保育所、学童クラブの
時間外 など



残業



冠婚葬祭



私は現在小学校低学年と幼稚園の子もがいるのですが、帰宅するまでの日中の時間に仕事をしていきます。でも仕事の都合上どうしても夕方や夜に勤務しなければならぬ時もあります。そんな時にこのファミリーサポートセンターを活用させてもらっています。

2年前に福島に引っ越してきたのですが、知り合いが全くいなかったため、自分が病気になるためのために、また仕事を始めるためにも短時間から子どもを預けられるこの制度を待ち望んでいました。

時間外の仕事も安心です

お願い会員

神谷

景子さん
(南矢野目)

まかせて会員さんとはまず面談をしてお互いの条件を確認しあえるのでとても安心です。私の場合、同じ年頃の子どもがいる方だったこともあり、子どもはもちろん親同士も仲良くさせてもらって人の輪が広がりました。

親の都合で子どもを預けることを後ろめたく思う方もいるかもしれませんが、自分の時間をもち、気持ちを楽しめることは子どもにとっても嬉しいことのように思います。これからもたくさんの方がこの制度を活用できるといいなと思います。

きっかけは、私自身が、急な用事などで子どもを預けたい時に預けるところが無くて困った経験があるということでした。そんなお母さん達のお手伝いできればと思います。まかせて会員に登録しました。

私にはまだ幼稚園に入っていない下の子がいるのですが、その子と一緒に自宅でお預かりした子のお世話ができるのが一番の魅力だと感じています。実際お預かりして驚いたのは、息子が赤ちゃん来るのをとても楽しみにしていて、お兄ちゃんと



同じ立場のお母さんをお手伝い

まかせて会員

伊藤

陽子さん
(西中央)

きつかけは、私自身が、急な用事などで子どもを預けたい時に預けるところが無くて困った経験があるということでした。そんなお母さん達のお手伝いできればと思います。まかせて会員に登録しました。

私にはまだ幼稚園に入っていない下の子がいるのですが、その子と一緒に自宅でお預かりした子のお世話ができるのが一番の魅力だと感じています。実際お預かりして驚いたのは、息子が赤ちゃん来るのをとても楽しみにしていて、お兄ちゃんと

一緒に遊んでいる中で、子どもたちの笑顔が見られることが嬉しいんです。限られた時間なので、できるだけ楽しく有意義に過ごせるように努めています。

「お願い会員」と「まかせて会員」、選べるの？

A

入会時に提出される調査票やアンケートをもとに、アドバイザーが条件に合った会員同士を紹介いたします。それから基本的に「まかせて会員」の自宅で事前打ち合わせを行います。お互いに「気をつけてほしいこと」「できること、できないこと」などをしっかりと確認し合い、もし希望通りでない場合には違う会員を紹介いたします。こうして「お願い会員」と「まかせて会員」の

トラブルへの対処は？

A

活動中にトラブルが起きた場合は、基本的には当事者間で解決していただくこととなります。ただし、万一のケガや事故に備え、「まかせて会員傷害保険」「賠償責任保険」「依頼子ども障害保険」の三つの保険に加入しています。保険の適用となる事故がおきた場合は、センターに連絡の上、補償を受けることができます。

合意ができていれば、いつでも必要な時にセンターを通して一時預かりを申し込みます。

ここから地域支援の輪を



私たちは、昔は近所づきあいでしたいたことを公的に仲介する立場だと思っています。去年の10月に活動を開始以来、仕事を持つ母親はもちろん、転居してきたばかりで知り合いがない方、あるいは自分の子育てが終わり今度は地域の子どもたちをお世話したいという方など様々な方が会員として登録しています。

子どもを預ける場合に理由は問いません。会員同士のコミュニケーションを深め、お互いに助け合う育児ができるよう積極的に利用してください。そのことが、母子の孤立化や虐待の防止にもつながっていくと思います。ここから地域支援の輪が広がることを期待しています。

まずは気軽にセンターへお問い合わせください。
TEL: 525-7678 FAX: 525-6123

読んでみらんしょ こんな本・あんな本

“しのびぴあ”では、おすすめ図書として数多くの本を紹介してきました。今号は、「若い」をテーマにした2冊をご紹介します。平均寿命が延び、高齢期のあり方も大きく様変わりしています。高齢期に近い人も、まだ時間がある人も、自分らしい「若い」について考えてみませんか。



著者によれば『この本の原形は1978年3月から半年間、週1回「朝日新聞」大阪本社版に連載された。当時、紙面にいち早く「高齢化」ページをつくったのは「朝日」では大阪本社でありそのベテラン記者、黒田輝政氏のすすめ、文学の中にみる老人像を取り上げてコメントしたものだ。』翌年にはPHPから「愛しきは若い」という単行本として出版された。『著者自身も高齢者の仲間入りをしており、時代は21世紀を迎えて、いよいよ本格的な超高齢社会への道を一路邁進中である。若いを社会的存在としてどうとらえ直すか、そして自分の老いをどう生きるか、一人一人の抱える主要なテーマとなっている。こうした現在の老いを照らし出し、若いを等身大に捕え直す必要があるのではないか。』『高齢社会は五つ星社会、即ち、長寿は平和と生活水準向上の証し。障害者と健常者を隔てる壁が崩れ、バリアフリーに個性豊かに生きることが「豊かさ」の基準と気付き、男女の対等なパートナーシップで結婚50年時代を志を軸に参画して結びあう連帯と協力の時代』という。



学陽書房
本体1,600円＋税

【著者プロフィール】
1932年東京生まれ
東京大学文学部美学
美術史学科卒業・東京大学新聞研究所本科修了。
事通信社・学習研究社・キヤノン株式会社を経て、評論活動に入る。現在、東京家政大学教授、「女性と仕事の未来館」館長、「高齢社会をよくする女性の会」代表。主な著書に、「午後に咲く花」文化出版局、「樋口恵子の元気が出る若い方」海竜社、「ワガママなバアサンになって楽しく生きる」大和書房、「めざせ100歳」(翻訳：デビッド・マホーニー、リチャード・レスター著) サンブックス、他多数がある。

盛年 若いてますます...

樋口 恵子 著

50歳を過ぎてから大学教員となり、単身赴任で15年。退職し、70代を迎えて、年をとるのも悪くないと感じている著者が、自身の体験を通じて人生80年時代の老年期の新しい過ごし方を提言する本です。
著者は終戦当時16歳。世の中の価値観が180度転換するという経験をしたことから「周囲に流されず、自分の意思で生きることを大切にできた」世代の一人でもあります。仕事や子育てをしながら、保育所や学童保育所づくりの運動にもかかわり、一貫して「女性労働・女性福祉」をテーマに、研究と運動を同時に実践する生き方を続けてきました。
食事や健康のこと、お金のこと、住まいのことなど、著者自身の実践を含め、エッセイ風にさまざまなアイデアが書かれています。著者と同世代の人たちばかりでなく、下の世代の人たちにもよりよい老年期を迎えるためのヒントとなることでしょう。



新日本出版社
本体1,400円＋税

【著者プロフィール】
1929年東京生まれ
日本女子大学卒業
1985～2000年 熊本学園大学教授
現在、女性労働・福祉問題研究者
主な著書に『働く婦人と保育所』(編著 東京保育問題連絡会編 労働旬報社、1968年)、『女性労働と保育——母と子の同時保障のために』(ドメス出版、1992年)、『女性福祉を学ぶ——自立と共生のために』(ミネルヴァ書房、1996年)

若いてはじらつ

橋本 宏子 著

ウィズ・もとまち からの おしらせ



3階ロビーには、誰でも自由に使えるパソコンとプリンタが設置してあります。インターネットには接続していませんが、ちょっとした会議用の書類作成するのにご利用ください。ただし、紙は持参いただくようになります。

3階ロビーがさらに利用しやすくなりました
●図書コーナーができました。
予約なしで使えるまちなかのスペースとして好評をいただいている3階ロビーに図書コーナーができました。男女共同参画やジェンダーに関する本が現在、250冊ほど置いてあります。今後、少しずつ充実させていきます。ロビーで閲覧できるほか、貸出もいたします。詳しくは事務室へお問い合わせください。
●パソコンとプリンタが使えます。

3階ロビーがさらに利用しやすくなりました
●図書コーナーができました。

男女平等ふくしまのつどい

テーマ

選ぶ・決める・動く

「女も男も自分さがし」

と き 2005年6月5日 13:30～
 ところ 市民会館 第1ホール
 講師 朝日新聞生活部記者 竹信 三恵子さん
 内閣府男女共同参画審議会基本問題専門調査会委員
 著書『家事の値段』とは何か ほか

参加無料(どなたでもご参加下さい)
 託児室あります

主催 ふくしま市女性団体連絡協議会
 共催 福島市
 問い合わせ 会長 佐藤智子
 521 - 5147

男女共同参画人材リストに 登録しませんか

あらゆる分野で活躍する市民の皆さんと一緒に男女共同参画を進めるために、人材を募集しています。

登録すると

審議会の委員の選任、学習会の講師など情報の提供を求められた場合に提供されます。(情報提供はご本人が同意した項目のみです。)

応募資格

福島市内に居住または在勤、在学する年齢20歳以上の方

問い合わせ

福島市男女共同参画センター
 525 - 3784

11-Issue 2

この指に止まれ

オニババ

最近の冬ソナブームは(中高年女性の純愛への酔いを表すバロメータ)ではないでしょうか。ヨン様に情熱を傾けることができるなんてすばらしいことだと思えます。恋に年齢はないですもの。まして、脳は快感を得ると活発に働き、また、快感を得たいと望むらしいです。私は、ヨンは好きでないのですが…。

一人暮らし三十数年、結婚もせず、子供がいないことに近頃とみに寂しさを感じて犬を飼った私。女の幸せという伝統的な価値観に考えを巡らします。結婚できない人が負け犬で、結婚できる人は勝ち犬と、どうして言えるのでしょうか。結婚したから幸せあふれる人生を歩める保証なんてないのに、なぜ決めつ

けた言い方をするのでしょうか。人間短いか長いかの人生を生きて、最終ステージ近くに私の人生は良かった、悪かったと思えるのではないのでしょうか。

津田塾大学教授で疫学者の三砂ちづる著の「オニババ化する女たち」の中に「女性が結婚せずに人生を生きると、性と生殖にかかわるエネルギーが体のあちらこちらに出てオニババ化する」なんて、本当にどうしてこういう表現をするのか、私にはわかりません。それでは、結婚しない男性はどうなるのでしょうか。仕事一筋、会社一筋に生きて定年退職になり、周りを見渡したら一人ぼっち、あわてて趣味を取り込んで仲間がいなくてはどうしようもない、

不器用な貴男はオニジジになるのかしら。でも、オニババとオニジジが暮らしていけたらよいと思うのです。

最後に私の人生は良かったと思えるように、孤独ではない環境で生きがいを見失わずに、お互いを必要とする中で暮らせたらと思います。各人の能力を生かして、仲良く暮らせる場、グループホームを創りたいと思っています。団塊の世代の私たちは、もう少しで高齢社会への仲間入りです。お互い助け合って暮らすために、男女を問わず野菜作りの好きな人、料理の上手な人、掃除の好きな人、お金の管理の上手な人、この指に止まれ。

(しのぶびあ編集委員)





須田 光江さん

(尚)とまと商事社長
趣味 日本舞踊(花柳流名取)
好きな言葉
求道存意(まじまじと道を求め合う)
家族構成
夫・息子さんと夫婦家族の六人

◆ご就任おめでとうございます。女性の活躍できる場所が増えて嬉しく思います。今のお気持ちを聞かせてください。

ありがとうございます。青天の霹靂(へきれき)で決断するまで随分と悩みました。佐藤会頭より要請を受けてからも、断りの言葉ばかりを考えていましたが、福島商工会議所女性会の推薦を受け、男女共同参画の時代にお役目を受けることは、福島の女性達の力になるのではと思ってお引き受けしました。会議所と街の活性化そして女性の声を発信する場として私が何らかのお役に立ちたいと思います。皆様からご支援をいただき嬉しいです。感謝の心と共に身が引き締まる思いです。

東北初の女性商工会議所副会頭に

須田 光江さん

女性の地位向上に道を拓く

福島商工会議所では副会頭4名の一席に女性を起用、新体制がスタートしました。就任して2ヵ月余りの新副会頭の須田さんにお話を伺いました。<インタビュー日 17.1.27>

で、気概を持って進みます。副会頭こそ地に足を付けて活動しなければなりません。会頭が女性を選んだところに意味があると思います。世の中には男が半分、女が半分。力を合わせることで大事です。女である私「個人」が副会頭にふさわしくなるよう努力しなければと思っています。私の前には道がありません。後輩のためにも責任のある第一歩です。

◆新年度の活動をお伺いします。どのようなプランをお持ちでしょうか？

活気ある街づくり計画です。市内観光の拠点を充実させ、人材を育てたいと考えています。例えば福島市の観光知識を身に付けて内外的発信者を充実させることです。「ふくしまふれ

あいカレッジ」で福島のことを見て、どこが良いのかの学習をします。

観光名所の「花見山」へ来られたお客様が、中心市街地へ足を延ばして楽しんで頂ける計画をも進行中です。「花と街のふれあいプロジェクト」です。街を花で飾り、街の中を花盛りにしたいですね。拠点は中心に一つのビルだけではなく、隣接する道路、店舗までもが一体となり、そこに集う「老若男女」の市民はもちろんなこと、観光シーズンには更に賑わう街づくりをと考えています。常に人が集まって来るようなすてきな店と街づくりをと企画中です。声を形にする商工会議所であり、みなさんと同じ立場で考え、発信できる私でありたいと思っています。

◆会頭、副会頭ともに新しい新体制の第一歩はいかがでしたか？

いろいろな会議に出席する機会が多くなりました。会議の参加者は私以外全員が男性です。女性が参加すれば良い、ということでもありません。「個人」がどのように力を発揮するのかが大切です。この点においても重荷ですが気負わない



須田さんのお宅には、メールを送る言葉が数多く届いていました。その中の一文を紹介してくれました。「あなたがお引き受けしたことは凛として、立派でした。新しい風を未来に吹いてください。私たちもついて行きます。」女性の副会頭を次期につないで行きましょう。

編集後記

ある研究会で、女性がハードボイルド小説を読むことに云々する発言がありました。ハードボイルド小説は、きわめて「男っぽい」小説だとされています。どうやら、性差によって、読むことのできる/できない小説があるらしいのです。このような思い込みは、男らしさ・女らしさ(つまりは、ジェンダー)の押し付けと結びついているように思われます。男らしさ・女らしさから両者ともに解放されることによって、男女ともに自由になれるのではないかと、そんな思いを込めて、今号をお届けします。

男女共同参画川柳

共生の森 美しいハーモニー

— 安田和楽志

今回の川柳は、安田和楽志さん(南沢又)のお寄せくださったものです。引き続き皆様からの投稿をお待ちしております。はがきまたはファックスでお寄せください。採用分には、ささやかながら記念品を差し上げます。

編集 しのぶびあ編集委員会

阿部勢津子(瀬上町) 阿部陽子(上名倉) 石高久美子(矢剣町) 伊藤由美(野田町) 久保哲二(南向台) 高橋肅子(町庭坂) 鄭玄実(町庭坂) 中村利信(松浪町) 平野和子(八木田) 水嶋いづみ(松山町) 湊園実(方木田) 渡辺真由美(黒岩)

表紙協力 切り絵作家 さとつとる(えん宮下町) や学習センターなどは市の窓口に着いてあります。また、福島市のホームページでもご覧いただけます。

